

成果指標				
成果指標	主な活動指標事業の参加者数その他活動事業数と参加延人数			
指標設定の考え方	①主な事業の参加者数、②その他活動事業数、③②の参加延人数とし、多様な学習機会の創設と選択的学習の推進への指標とする			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標27年度
目標	8事業2370人	8事業1315人	7事業1300人	7事業1300人
実績	9事業2391人	6事業1759人	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	4	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>上述したように、事業によっては参加者が少ないため、地域課題や活動を把握し必要な事業を行う必要がある。一方では、実際の生活に密着した学習テーマの設定を参加者で組み立て活発に事業が行えたものもある。</p>			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	<p>市民自らが考え、実践するプログラムの支援を行っている。今後は、学習成果を生かせる場づくりが必要である。また、学習者主導で地域課題や生活課題に向き合った学習や運営をどう進めていくかを考え、実践していかなければならない。</p>			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題